

# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol. 1



発行日：平成 26 年 5 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 17 回海部会WGを開催しました！

5 月 19 日に第 17 回海部会 WG を開催しました。平成 26 年度の海部会の 4 つのテーマに対応する活動方針を確認し、活動計画について話し合いました。

日 時：H26 年 5 月 19 日(月) 13:00～15:00  
活動場所：西尾市役所 会議棟 2階 第4会議室  
参加者：18 名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

### 1：今年度の活動計画について



#### 【主な内容】

- テーマ1のごみ・流木調査については、6月に行われる西の浜エクスカーションを次回海部会の活動に位置づけて活動を行う。
- テーマ1の海底ごみ調査、テーマ2の海底生き物調査については、水産試験場が予定している海底生き物調査の結果を海底ごみの状況と合わせて、12月頃に報告を予定する。また、可能であれば、底引きによる生き物調査の見学を実施する。
- テーマ2の鳥類からみる海の調査については、担当者と調整して秋頃に実施を予定する。
- テーマ3の子ども干潟体験については、矢水協が主催するイベントの3日間（8月9、10、11日）のどこかで海部会を開催し、参加者の反応やイベント進行などについて学ぶ。
- テーマ3の漁業者との交流については、海部会単独で行うのではなく、懇談会全体で広く位置づけ、勉強会の中で各部会の実務者（海部会の場合は漁協組合の組合長）の話を聞く機会を設けることを提案する。（青木）
- テーマ4の干潟造成については、1年間通したテーマとし、ダム砂を持ってきてもらえるように話し合いを進めることから始める。



6月 西の浜エクスカーションに参加  
8月 子ども干潟体験に参加を予定  
12月 海底ごみや生き物調査の結果の報告会を予定  
※鳥類からみる海の勉強会は、10月、11月で担当者と調整  
※残りの部会で土砂の話を検討

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

### 2：市民企画会議からの報告及び提案について



#### 【主な内容】

- 流域連携テーマの担当者として、ごみ・流木については井上氏、土砂については青木座長、鈴木副座長、木づかいについては、石川氏が決まった。
- 連携についての会議は、改めて設けるのではなく、全体で集まるときに時間を設けて実施してほしい、という要望があった。



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijnet.or.jp）までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### テーマ1：ごみ・流木問題

- ごみ・流木調査については、出来れば、山部会、川部会の方にも来ていただきたい。(青木)
- 合わせてこれまでの調査結果を報告しても良いし、愛知県の調査結果の報告や勉強会を実施しても良い。(青木)
- 6月15日に西の浜エクスカーションが行われる。海部会にも出席要請があったので、よろしく願いたい。(松井)
- 西の浜エクスカーションの活動をテーマ1の活動にあてはめても良い。その後、海部会で取り組んできたごみの問題を報告するということが良いか。(青木)
  - (一同了承)

### テーマ2：豊かな海の生物調査

- 海底生き物調査は、矢作川をきれいにする会でも実施している。漁師さんの船で引いて、魚もとれるし、ごみも一緒に入る。(石川)
  - 海底ごみ調査と一緒にできるということか。(青木)
- 今年、水産試験場が三河湾全域の溶存酸素と生き物の関係を調査する予定である。漁獲物の写真を撮るので、ごみの状況も分かると思う。海部会で実施するのであれば、三河港湾の船を出してもらい、見学者を分けると良い。漁船を出してもらうのにお金がかかるが、可能であれば実施すると良い。(鈴木)
  - 生き物調査の報告会については、12月になりそうである。(山田)
- 今年度調査結果を12月に報告できるかどうか分からないので、一度持ち帰ってもらった方が良い。(鈴木)
- 海底生き物調査結果と海底ごみの状況報告を12月に予定することで良いか。(青木)
  - (一同了承)
- 鳥類からみる海の調査は、秋頃が良いということで、10~11月で高橋さんと相談することで良いか。(青木)
  - (一同了承)



### テーマ3：人と海との絆の再生

- 子どもの干潟体験については、いつも矢水協と関係者、上流の小学校で行っている。(平岩)
- 今年は8月9、10、11日で親子干潟体験を行う。上流の小学校2校と西尾市内の1校で行う予定である。1回にバス1台で40人の親子がくる。一緒に参加、というのは構わない。一緒に話を聞いてもらえばいいし、知識のある人はお手伝いをしてもらえば良い。(石川)
- では、3日間のどこかで海部会を開催し、どんなふうに行っているか学ばせてもらうということが良いか。(青木) ▶ (一同了承)
- 漁業関係者との交流については、漁業者の人の話を聞くと、三河湾がどのように変わってきたかということがすぐ分かるので聞きたい。(大矢)
- 東三河の環境や漁業の歴史がどう変わってきたかは、東三河の組合長は皆さん話してくれると思う。勉強会のなかで機会を設けてはどうか。事業者の人の話を聞くというのは、懇談会全体でも行ってないと思う。人選が難しいが、例えば、川は新見さん、海は石川さん、山は蔵治さんなど、30分くらい、昔と今というテーマで話してはどうか。(鈴木)
  - 市民企画会議で流域連携の勉強会を行いたいという話があり、テーマを矢作川流域の様々な課題として、7月1日に辻本先生のお話を聞くことが決まっている。その勉強会の中で、お話いただいても良いと思う。(事務局)
- 漁業者との交流については、海部会単独で行うのではなく、広く位置づけて行うことにする。(青木) ▶ (一同了承)



### テーマ4：干潟・ヨシ原再生

- 干潟造成については、ダムを砂を持ってきてもらえるように交渉を進めることから始めてはどうか。ダムの砂を一画に持ってきて、生き物調査や、砂の動きを観察することに、協力してもらえないかということで交渉したい。(青木)
- ダムの砂を渓谷に運んで処理しているのは理屈に合わない。ダムの砂は本来、流下して海の生態系を育む一助であるという理解しなければ、変わらない。経費や手間の問題ではない。土砂処分の現状をみたら、山の人も川の人も意見が変わると思う。(鈴木)
- 安倍川は、山から流す土砂量を決めて流す計画があるので、そういう考え方があるはずである。関係者に打診するような働きかけをすることを目標にするということかどうか。(青木)
  - ダム側だけでなく、海側の管理者、漁業権のある方、市町、港湾などにも打診の必要がある。(鈴木)
- このテーマは、1年を通して検討するテーマということで良いと思う。(青木)

## ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



**よかったと思うこと：**行えること、できないことの議論がしっかりできた。それが実際の進め方に反映された。/山からの息づかいも感じられたことがよかった。/ダム土砂の利用について、WGからも話が持っていける形になるのは、良いことだと思います。矢水協としても、各機関にダム土砂利用と話していきたいです。

**よくなかったと思うこと：**新たに何かという具体的進展はなかった。/この会は学ぶことも多いが、よく分からない部分も多い。/時間管理について、大いに議論するため、もう少し余裕を持ってはどうか。/テーマと進め方、これまで進んだことを表示するとよい。進めたい重軽を決めるとよい。

**今年度取り組んでいきたい活動など：**硫化水素対策(穴道湖における取組み)に関する情報提供。/若い世代に、三河湾・伊勢湾にまだ残っている素晴らしさを伝え、海に関心を持ってもらうこと。/資産策を立てて話し合うこと。/互いに知り合う→理解する

## 今後のスケジュール(予定)



### 次回 第18回海部会WGを6月15日(日)に開催します

西の浜エクスカーションの活動に参加し、ごみ・流木の問題について意見交換を行います。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol.2



発行日：平成 26 年 6 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 18 回海部会 WG を開催しました！

6 月 15 日に第 18 回海部会 WG を開催し、田原市の西の浜海岸にて、ごみ・流木調査本調査を実施しました。  
なお、今回 WG は、22 世紀奈佐の浜プロジェクト「西の浜エクスカージョン」と同時開催で実施しました。



日時：H26 年 6 月 15 日(日) 10:00～15:00  
場所：田原市 西の浜海岸  
参加者：30 名（事務局含む）

## ◆主な活動・会議内容

### 1：田原市の西の浜海岸にて、ごみ・流木調査を行いました



田原市の西の浜海岸にて、ごみ・流木調査を行いました。流木、人由来ごみの 2 種類の調査について、山・川・海メンバー合同で話し合いながら実施しました。



西の浜海岸



10m 四方範囲を調査します



流木の種類をチェック



人由来ごみを集めます



種別に分類

※調査結果は裏面に記載しています。

### 2：西の浜エクスカージョンにも参加しました



本調査と合わせて、西の浜エクスカージョンを実施し、西の浜海岸清掃や伊勢・三河湾流域学習会を実施しました。学習会では、矢作川流域圏懇談会の活動報告として、山・川・海の活動報告を行いました。



始まりの会にて、亀の子隊より海岸清掃の説明



碓氏より矢作川「川会議」の活動報告



洲崎氏より森の健康診断の活動報告



青木座長より海部会の活動報告

## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。











## ◆本調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの 1%、川発生のもの 10%、海発生のヨシ 25%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分（ランク 4~5）で、内訳は以下のようになった。

<流木の状況>

A. 漂着物の状況 (時間経過)	1	樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの	無
	2	樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの	有
B. 人工林・自然林、 その他の別	1	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林	無
	2	まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木	無
	3	切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの	無
	4	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等	有
	5	その他 ( )	

<人由来のごみの状況>

写真	       
種類	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器・トレー、ふた、キャップ、袋類（農業用以外）、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター、その他生活系 【漁業系ごみ】釣り具（針、糸）、釣り具（ルアー等）、その他漁業系（網等） 【事業系ごみ】木材等 【その他】硬質プラスチック片、発泡スチロール片、シート、袋の破片
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの種類としては、飲料用プラボトル、袋類が多い。</li> <li>・佐久島でのプレ調査時と比べ、ごみの量が少なかった。</li> <li>・海岸沿いには砂だけでなく、礫も多く見られた。</li> </ul>

## ◆振り返りでの主な意見

### ●今後のごみ・流木調査への提案について

- ・水際と堤防沿いでは、ごみの種類が異なるので、網羅的に調査をしてもいいのではないかと。今回の調査エリアには、農薬の袋や苗木ポットはなかったが、堤防沿いには多く見られた。
- ・今後、ごみの発生源調査を行ってもいいと思う。
- ・FM愛知などのマスメディアとの連携により、広報を行うことで、参加者が多く集まると思う。



海岸清掃に集まった人たち

### ●伊勢三河湾流域学習会（西の浜）について

- ・西の浜では、亀の子隊の活動が継続されていることがいい。ただし、子どもに注射器を拾わせていいのかという問題もあると思う。
- ・ごみを拾っても、台風が来れば、もとに戻ってしまう。そのために、ごみをどうしたら減らせるのか、根本的な対策についても考えていかなければならないと思う。
- ・ごみ調査は、砂浜という場所があるから実施できることを改めて感じた。



伊勢三河湾流域学習会に集まった人たち

## 今後のスケジュール（予定）

次回 海部会第 19 回 WG を 7 月 22 日（火）に開催します

内容は、ごみ・流木調査の今後の進め方、子どもの干潟体験、干潟造成について話し合う予定です。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol. 3



発行日：平成 26年 7月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第19回海部会WGを開催しました！

7月22日に第19回海部会WGを開催しました。今後の活動計画やゴミ・流木調査の結果と今後の進め方、次回のWGについて話し合いました。また、WGメンバーである国土交通省三河港湾事務所の田村課長と名城大学の鈴木特任教授より三河湾干潟造成について講義をしていただき、意見交換を行いました。

日時：H26年7月22日(火) 13:30~15:30  
活動場所：西尾市役所 会議棟 2階 22B会議室  
参加者：21名(事務局含む)



## ◆主な会議内容

### 1：話し合いで決まったこと

#### ■今後の海部会WGの活動計画

●今後の海部会WGの日程と活動内容を以下のように決定した。

第20回	8月11日(月)	子供干潟体験(トンボロ干潟)
第21回	9月5日(金)	鳥類からみる海の調査
第22回	10月11日(土)	ゴミ・流木調査(佐久島)
第23回	11月	干潟造成に向けた検討
第24回	12月	海底ゴミや生き物調査結果の報告会

#### ■ゴミ・流木調査の結果と今後の進め方

- 第18回海部会WG(H26.6)で実施した西の浜でのゴミ・流木調査の結果を確認した。
- 矢作川下流域で出水後3日以内にゴミ・流木調査を実施する。

#### ■次回WG(子どもの干潟体験イベント)

- 子供たちに感想と海との日頃の関わりをアンケート調査する。
- イベントは午前中でできりあげ、西尾市役所・幡豆支所に移動して振返りを行う。

### 2：講義

#### ■三河港湾事務所講義：干潟・浅場造成に関する検討状況について

- 平成21年度より伊勢湾再生海域検討会三河湾部会で伊勢湾再生海域推進プログラムを検討した。
- 干潟・浅場造成と深堀後修復は優先施策として計画に位置付けた。
- 干潟・浅場造成については、平成22年度に数値シミュレーションを行い、平成25年度に候補地を5箇所選定した。今年度は、干潟・浅場をどうつくっていくか、手法などを検討していく。



#### ■鈴木特任教授講義：三河湾環境再生プロジェクト行動計画について

- 単一の自治体が管理する内湾は長崎の大村湾と三河湾だけだが、三河湾自体は大変痛んでいる。どう再生すればいいか、なんとか智恵を出してほしいということで、産学官の代表者で構成する委員会を設立し、三河湾環境再生プロジェクト行動計画を策定した。
- これまでは主に下水道整備により流入負荷量の削減を図ってきた。結果としてリンは激減、窒素も3割減となったが、CODと貧酸素面積は増えている。
- 三河湾では当面、1200ヘクタールの干潟・浅場の保全・修復が必要であり、平成10年から16年に航路浚渫砂を利用して、国土交通省三河港湾事務所は600haの干潟・浅場を造成した。
- 造成事業と六条干潟からの稚貝放流により、アサリの漁獲量も増えていった。水質は造成50年後、透明度3.5mから4mまで回復した。
- 汚濁負荷総量の規制については、推進すべきとの意見や漁業への影響等を考慮して慎重に進めるべきなど賛否両論ある。
- 干潟・浅場を造成するための砂がない。矢作川上流のダム堆砂など良い砂があるが、お金がない・部局が違う・ダンプで運ぶと炭酸ガスが出るなどの課題が出てくる。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

### ■ 今後の活動計画

- ごみ・流木調査は10月の11日が良い。(青木)
- 10月の12日は都合が悪い。(井上)
- 鳥類調査は天候に左右されるか。(青木)
- ▶ 天候には左右されにくい、調査時期は早い方が良い。また、休日は人が多く観にくいので、平日が良い。(高橋)
- ▶ 鳥類調査は9月5日(金)、ごみ・流木調査は10月11日(土)の実施を基本とする。(西原)

### ■ ごみ流木調査

- 山部会の人があれば流木の種類がわかると思う。(青木)
- ▶ 西の浜での調査のときは来てもらった。樹皮がはがれてわからなかったが、専門家に来てもらいたい。調査の仕方とアナウンスは昨年同様とした。(西原)
- 西の浜で調査を企画された方が、参加者はゴミを拾うことで満足しているがそれは違うと言われていた。ゴミ拾いを通じていろんなことを勉強してほしい、と言われていたのが印象的だった。(青木)

### ■ 次回のWG(子供の干潟体験イベント)

- 山の方の小学校は来るのか。(青木)
- ▶ 8月9日、10日に来る予定。(西原)
- 山と海の子どもの違いもわかるとおもしろい。(青木)
- 流域連携を考えていくのなら何か残るものがあるとよい。(井上)
- 孫がいるがあまり海に行かない。(高橋)
- 海辺の子どものも堤防で隔絶されて海に行かない。昔と変わっている。海への理解のない人が増えている。干潟や海岸で生き物と触れ合う経験がどれだけあるか把握することは重要。(石田)
- ▶ 事務局でアンケートを修正し、確認いただく。(西原)



## ◆講義での質疑

### ■ 三河湾干潟造成について

- コスト以外に障害はあるか。(青木)
- ▶ 山と川を管理する事務所がどう連携していくか。調整していく必要がある。(田村)
- 造成に使われる砂はどこから持ってくるのか?(井上)
- ▶ 航路浚渫土砂の活用も考えられるが、三河湾では少ない。山の土砂を使うようなことまで検討しきれない。(田村)
- 工事の発生土は?(青木)
- ▶ ブレンドして使えないかを検討している。(田村)
- 以前に航路浚渫土砂を使った時には生物に適さない砂もあったので配慮してほしい。(平岩)
- 航路浚渫土砂で埋め戻し覆砂をすると、下と上の砂が入れ替わるようなことはないか。(井上)
- ▶ 圧密しているのでそのようなことはない。(田村)
- 造成断面などの環境への配慮は?(石田)
- ▶ 底性生物が生息しやすい高さに設定している。流れへの影響も今後検討していく。勾配も緩めにしたり検討していく。(田村)
- アサリの生息環境等の改善効果はどう評価するのか。(西原)
- ▶ コスト比較はしているが、環境的な効果を定量的に評価するまではしていない。(田村)



### ■ 鈴木先生講義

- ダムの土砂を入れた干潟・浅場をつくるにはどうすればいいか?(青木)
- ▶ 場所の問題があり、地元の漁業者と話をする必要があり。費用対効果をベースに、国や県が政策的な判断で導入に積極的な価値を見出しにくいと実現できない。(鈴木)
- 兵庫県の播磨灘では、約20km上流の千種川の川砂を使い、国の河川事業として海の浅場造成が行われた。(山田)
- ▶ 矢作川では運搬距離の克服が課題。矢作ダムから半径40kmまで搬出可能とダム管理者から聞いている。(鈴木)
- 環境再生の問題として捉えてくれれば事業が動き出すと考える。(青木)
- 山も川も巻き込んで、新しい矢作川方式ができるが良い。(高橋)
- 費用対効果だけでなく、産業連関分析を実施する必要がある。懇談会として国土交通省に提言できれば価値がある。(井上)
- ▶ 便益の評価方法や国・県の連合体として早急に必要なものもある。各組織体が真剣に動く必要がある。(鈴木)
- 底泥からの影響もあるので、流入負荷対策はまったく効果がなかったわけではない。それだけでは限界があるという認識を持っている。(谷口)
- ▶ 流入負荷対策は、あくまで海域の貧酸素化には効果が確認できなかったということであり、水質改善には効果はみとめられる。(鈴木)
- これまでは窒素やリンで湖の水質を評価してきたが、今後は見直しが必要になってくると考える。(井上)
- 海部会として目に見える具体的なアクションを起こしていきたい。(青木)



ふりかえり 会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



**よかったと思うこと:** 資料の提供があった/本音の発言ができた/改めて、干潟、浅場の効果が勉強できてよかった/環境再生事業を単独で実施していくことの難しさを改めて認識した/干潟・浅場構造について詳しく説明していただいたこと/今年のスケジュールが見えたこと/色々な機関の取り組みが分かった

**よくなかったと思うこと:** テーマが大きく難しいこともあり、土砂問題に対する落としどころが見つけられないこと。

**今年度取り組んでいきたい活動など:** 流域視点での砂供給ができる方法を考えること/土砂問題を進めていきたい/他部門、他事業との連携/海への関心を高める活動/矢作川ダムの砂を実際に河口にもってきて実験してほしい/干潟・浅場構造について、今後の展開を知ってほしい/愛知県事業と流域圏との連携を進めていきたい

## 今後のスケジュール(予定)



### 次回 第20回海部会WGを8月11日(月)に開催します

東幡豆海岸・前島のトンポロ干潟で行われる自然観察会に参加し、子供たちの海への意識を把握し、振り返りを行います。



# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol. 4



発行日：平成 26 年 8 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 20 回海部会WGを開催しました！

8 月 9 日と 12 日に第 20 回海部会 WG を開催しました。今回は、子どもの海に対する意識や触れ合いの課題などの把握を目的とし、東幡豆漁業協同組合主催の干潟観察会に参加するとともに、参加した小学生と保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。

日時：H26 年 8 月 9 日（土）、8 月 12 日（火） 9:00～16:00  
活動場所：東幡豆海岸トンボロ干潟、前島  
参加者：5 名（事務局含む）



## ◆主な活動内容

### 1：干潟観察会に参加しました



干潮前に東幡豆海岸に集合し、トンボロ干潟が現れた頃に前島に歩いて渡りました。前島に到着後、干潟セミナーとマテ貝とりが行われました。その後、昼食とアサリの浄化実験、三河湾ミニクルージングを経て、アンケート調査を行いました。



トンボロ干潟と前島



干潟セミナー



マテ貝とり



アンケート

### 2：干潟観察会の参加者にアンケートをしました

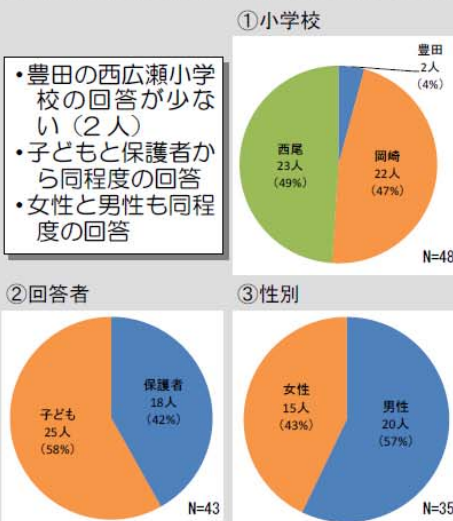


#### 実施概要

- 調査日時
  - 2014 年 8 月 9 日（土）：岡崎
  - 〃 〃 8 月 12 日（火）：豊田・西尾
- 調査対象
  - 干潟観察会に参加した小学生と保護者
- 調査項目
  - 楽しみにして来たプログラム
  - 普段の海への訪問機会
  - よく行く海
  - 海に行く目的
  - 海に行く頻度
  - 海に行かない理由
  - 三河湾の印象
- 調査方法
  - 干潟観察会終了間際にアンケート調査票を配布・回収
- 回収数
  - 8 月 9 日（土）：22
  - 8 月 12 日（火）：32
  - 合計：54

#### アンケート調査票

#### アンケートの結果



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

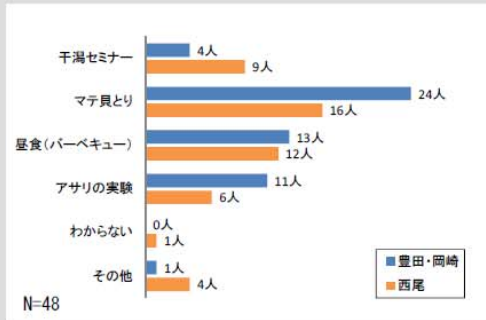
〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100



# ◆アンケート結果

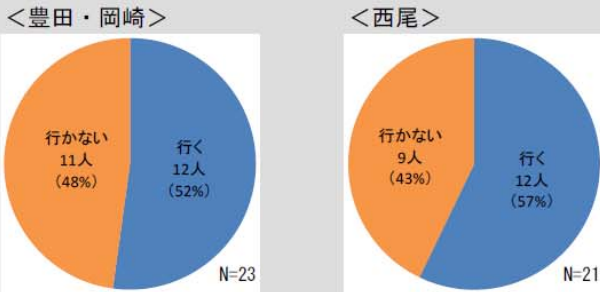
## (1) 楽しみにしていたプログラム（複数回答）

- ・干潟セミナーのようなお勉強よりも、マテ貝とりやバーベキュー、アサリの実験などの活動への関心が高い



## (2) ふだんの海への訪問

- ・普段海に行く人と行かない人に分かれる
- ・西尾の方が普段海に行く人の割合が比較的高い



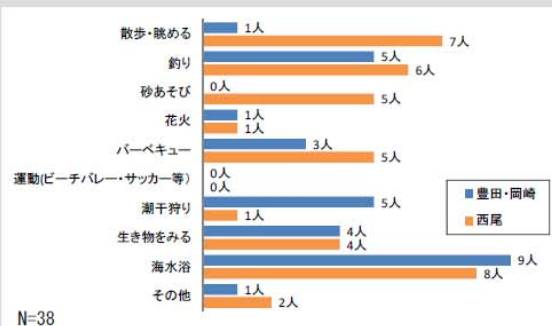
## (3) よく行く海

- ・豊田・岡崎は他県の海にも行っている
- ・西尾は地元の実験などの活動への関心が高い

- | 豊田・岡崎 (N=11) | 西尾 (N=16)     |
|--------------|---------------|
| ●三河湾         | ●三河湾          |
| ・三河湾 (3)     | ・三河湾 (3)      |
| ・西尾 (2)      | ・吉良ワイキビーチ (5) |
| ・南知多 (1)     | ・寺部海水浴場 (5)   |
| ・一色と西浦 (1)   | ・宮崎海岸 (3)     |
| ・蒲郡 (1)      | ・一色漁港 (3)     |
| ●他県の海        | ・14号地 (2)     |
| ・静岡の海 (3)    |               |
| ・新潟 (1)      |               |

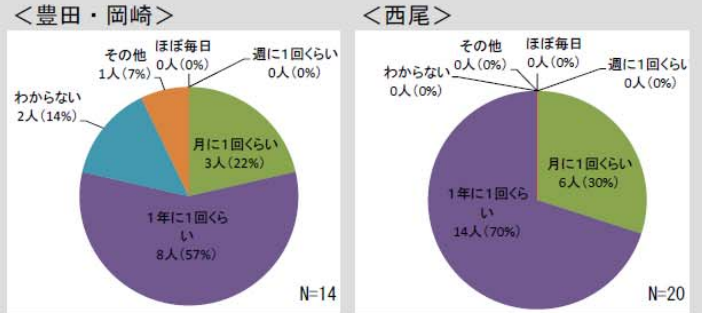
## (4) 海に行く目的（複数回答）

- ・「海水浴」が最多
- ・西尾の方は「散歩・眺める」「砂あそび」が多いのに対し、豊田・岡崎は少なく逆に「潮干狩り」が比較的多い



## (5) 海に行く頻度

- ・「1年に1回」もしくは「月に1回」の頻度で海に行っている
- ・西尾の方が「1年に1回」の割合が大きい(70%)



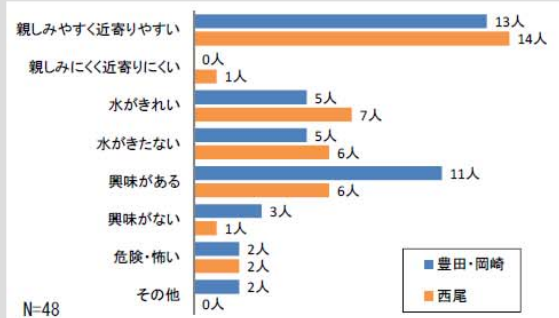
## (6) ふだん海に行かない理由

- ・「距離が離れている」が多い（特に豊田・岡崎が顕著だが、西尾も多い）
- ・「子どもが小さく危ない」という親の意見もあるが、「親が行かない」という子どもの意見もみられる

- | 豊田・岡崎 (N=17)   | 西尾 (N=11)        |
|----------------|------------------|
| 【距離が離れている】     | 【距離が離れている】       |
| ・海が遠い (4)      | ・遠い (3)          |
| ・海まで時間がかかる     | ・近くにあるが、なんとなく遠い  |
| ・近くに海がない (2)   | 【暇や時間がない】        |
| 【子どもが小さく危ない】   | ・行く時間がない (3)     |
| ・子どもが小さく危ないと思う | ・行く暇がない          |
| ・危険            | 【親が行かない】         |
| ・まだ子供が小さい      | ・お母さんが連れて行ってくれない |
| 【暇や時間がない】      | ・連れてってくれない       |
| ・行く暇がない        | 【その他】            |
| ・忙しくて行けない      | ・行く機会がない         |
| 【汚れる】          | ・あまり興味がない        |
| ・砂が付く          | ・わかめが多い          |
| ・車が汚れる         | ・日焼けしたくないから      |
| 【親が行かない】       |                  |
| ・お父さんが仕事だから    |                  |
| 【その他】          |                  |
| ・行く機会がない       |                  |

## (7) 三河湾の印象（複数回答）

- ・三河湾は「親しみやすく近寄りやすい」印象
- ・豊田・岡崎の「興味がある」割合が比較的大きい



## (8) 感想

- ・楽しかった、驚いた、感動したなどの意見が寄せられた

- | 豊田・岡崎 (N=11)     | 西尾 (N=18)        |
|------------------|------------------|
| 【再訪したい】 (2)      | 【楽しかった】 (6)      |
| 【生き物に関心を持った】 (3) | 【生き物に関心を持った】 (4) |
| 【楽しかった】 (2)      | 【干潟体験に感動した】 (4)  |
| 【その他】 (2)        | 【その他】 (2)        |



# 矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol. 4



発行日：平成 26 年 9 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 21 回海部会WGを開催しました！

9月5日に第21回海部会WGを開催しました。鳥類からみる海の調査を実施した後、調査の振り返りと干潟観察会の結果や次回の活動などについて話し合いました。

日時：H26年9月5日(金) 10:00~14:00

活動場所：衣崎漁港、矢作古川河口部周辺  
西尾市役所一色支所1F 第4会議室

参加者：13名(事務局含む)



## ◆主な会議内容

### 1：衣崎漁港、矢作古川河口で鳥類観察を行いました。

西三河野鳥の会の高橋さんにアドバイスを受けながら衣崎漁港周辺の海岸でシギやチドリなどが地球的規模での渡りの中継地として干潟を利用している状況等を観察しました。

#### <高橋氏の説明>

- ・シベリアの淡水の環境で育った渡り鳥にとっては、干潟と共に後背地である水田や淡水湿地が必要である。
- ・しかし後背地は、産業廃棄物で埋め立てられたり、太陽光パネルの設置場所などに環境が変わっている。
- ・三河湾の後背地では、塩田跡のような広大な淡水湿地の環境が残っていたことが幸いし、野鳥にとって好ましい環境であったが、人間にとっては開発等の適地とみなされたきらいがある。
- ・また、春と秋の渡りの時期は、田んぼのしろかきとイネ刈りの季節に重なり、渡り鳥にとって最適な環境であったが、近年は隔年で麦と大豆の転作が行われており、餌となる水生生物や土壌生物が消滅した。
- ・満潮で干潟が姿を消したときの後背地として適した場所が無くなり、水鳥の飛来は激減している。
- ・川からの砂の供給が減ったこと、後背地の埋め立てや乾燥化により、野鳥が減ったものと考えられる。
- ・第一次産業の衰退問題や環境問題など、野鳥を見ていると人間社会の負の部分が目に見えてくる。
- ・シギ類は種毎に水田や干潟で様々な餌を食べている。どちらの環境でも生息する種は激減しているが、水田などの淡水湿地に生息する種はほぼ絶滅状態であり、干潟に生息する種が僅かに残っている程度である。
- ・セイタカシギは絶滅危惧種だが、ここ衣崎漁港付近では繁殖している。底生生物を食べ、あまり遠くまで移動をしない。ドロドロの泥質で一見汚く見える環境も、生き物たちにとっては極めて貴重な場所である。



望遠鏡で鳥を観察



渡り鳥等が休息・補食する干潟の状況



水際で休憩するセイタカシギと埋立て等が進んだ後背地の状況



セイタカシギが繁殖した環境

### 2：話し合いで決まったこと

#### ■鳥類からみる海の調査について

- ・干潟と後背地の土地利用のあり方を一体的に考えることの重要性を確認・共有した。

#### ■干潟観察会について

- ・親や先生の環境意識の向上や海へのアクセスの充実、人を集める工夫や知恵が必要。

#### ■次回について

- ・愛知県との取組と連携し、ゴミ・流木調査とアンケート調査の両方を実施する方向で検討する。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100



## ◆話し合いでの主な意見

(・意見・感想 ▶回答)

### ■ 鳥類からみる海の調査の感想について

- 今日はダイシャクシギやアオアシシギ、シロチドリ、ウミネコ、キアシシギなどを観察できた。10年前は20~30種類はいた。(高橋)
- 20年前に一色干潟の水質浄化の調査をした時は鳥がたくさんいたが、今日は少なく感じた。干潟の後背地の土地利用が大切であり、水質も人から見れば汚れたが生き物から見れば豊かさになるという違いがわかった。干潟については、鳥の話が一つの大きな柱になるのではないかと。(鈴木)
- カワウもいたが、各地で増えすぎて漁業や生態系に影響が出ている。一つの種を大事にしすぎてはいけない。(高橋)
- 三河湾の干潟が豊かなのは、陸側から入ってくる栄養素が多いため。アサリが多いのもそのためだが、鳥の役割も重要になる。鳥は干潟の有機物を間引いて他の場所に持って行ってくれる。それにより干潟は豊かな状態に保たれる。漁業者なども同じで、干潟の生き物をとりあげることが重要なこと。単に自然保護ということではなく、干潟を守っていくためにも、鳥の来遊を担保するための後背地の土地利用対策や研究の継続が必要。(鈴木)
- 独立行政法人港湾空港技術研究所の桑江氏が干潟に飛来するシギが潮が満ちてくるとバイオフィルム(微生物)を食べていることを発見した。とにかく多様な環境がないと生き物も生きていけない。人が入り攪乱することも大切。(高橋)
- 最近の中学生は教育はされているが、鳥が何を食べているなどの生態系の複雑なやりとりを肌で実感できていない。さらに川や海で遊ぶ体験がなくなり、あげくの果てに危ないからやめろという話になる。(鈴木)
- 昔から人は、沖合の鳥の群れを見てカツオやマグロの居場所を探してきた。また、兎島では、兎や猿、人がいなくなり、サギばかりになって糞害で木が枯れ巣をつくっていたクジャクもいなくなった。人と鳥の接点は多い方がいいことばかりでもなく難しい。(石川)
- 愛知県は一日中田畑に陽が当たり、農業をするには最高の場所であり海外にも誇れる。大きな話になるが、漁業、農業と工業が同時に成り立つような社会構造にしていくことが流域圏としての課題。(高橋)
- 以前、三河に来たオランダの干潟研究者を案内したが、対岸が見えるような海で、のりや貝、鳥などがたくさんいることに驚いていた。地元の間人は当たり前と思いきや豊かさに気づかず、埋立てで駐車場にしている。愛知県は自動車産業で儲けているが、節操がない。生物的にも多様、産業的にも多様。それがバランスできるしくみを模索したい。どこかに資源が偏るといけない。鳥はその面でわかりやすいメルクマール。鳥をみていると海の変化、土地の変化がよくわかる。(鈴木)
- 地元が地元を知らなさすぎる。こんなによい環境、干潟があるのに、子どもたちも空気のように見ようとしなない。(石川)
- 私が育った長良川の流域圏の山の中では夏の間は少し日が差すくらいだが、矢作川の流域圏は谷も浅くどこでも住める。ここで農業漁業が成立しなければ、世界中どこでも成立しない。昔海苔養殖をしていた家内の友人の家で山盛りの黒いびかひかの海苔をお茶請けに出された時は、山で食べていた青い海苔とあまりの違いに感動した。(高橋)
- 日本中の海を歩いたが三河湾のように豊かな海はない。だから余計、壊れていくのを見るのがしのびない。(鈴木)
- これだけ地元が知らないということもない。(石川)
- 昔は糞の糞は肥料として売れた。本来鳥はそういう役割をしなければならないが、人間がうまく関係して利用するのが一番理想だと思う。(高橋)



### ■ 干潟観察会の結果について

- 8月9日と12日で親と子の割合に違いはあったか。(青木)
- ▶ 両日とも親と子は半々だった。(西崎)
- 三河湾の水のきれいさは、見る場所によって印象が変わったかもしれない。(石川)
- 普段海に行かない理由として「距離が離れている」という意見が多いが、実際はどうか。(青木)
- ▶ 海沿いの名鉄三河線が一部廃線になってから交通手段が減った。学校から駅まで遠いため、バスで送迎している。(石川)
- 豊田の西広瀬小学校の参加者が少なく残念だった。(石川)
- 西広瀬小の子どもたちは8月20日に安城でピオトップの取組の発表していたので、夏休みは忙しかったかもしれない。元から矢作川の水質を測るなど環境意識は高いので、偶然だと思う。(平岩)
- 学校の先生の意識が高いのだろう。水産高校が小中学校の教員を対象に環境教育をしているが、リピーターが多く新規が少ない。(鈴木)
- お母さんがマテ貝を気持ち悪がって触れない。アサリと違いマテ貝は入場料を捕らないので、リピーターが増えてきている。(石川)
- 食べさせたら良いと思うが。(鈴木)
- ▶ 持ち帰る人やバーベキューする人もいる。愛知県産の大アサリも食べた。(石川)
- ▶ アカエイはエイヒレを食べられる。(高橋)
- 食べないから生き物が増える。食べることも大切。食べると子どもの関心も上がる。(鈴木)
- 三河湾大感謝祭のようなイベントは都会の人には良いチャンス。(鈴木)
- 海に行かないのは距離だけの問題ではない。行った先に楽しみが必要。(青木)
- 海辺に車をとめるところがない。海へのアクセスのための駐車場や階段の他、海の駅などの飲食できる場所があればよい。また、水辺に人を集める工夫が必要。師崎漁港の朝一は10年続いている。そのくらいのスパンで取り組み必要がある。後継者がいないため、潮干狩りできる場所も全国で減っている。三河湾で漁業と環境産業の成功事例をつくれないうか。(鈴木)

### ■ 次回WGについて

- 流域圏メンバーの昼食はどうするか(国立)
- ▶ 弁当サロで会議ができれば弁当も一緒に頼みたい(西原)
- 何人くらいどんな人がくるのか(青木)
- ▶ 定員は50人。環境意識の高い親が子どもを連れてくる。(国立)
- アンケートは東幡豆と同じ内容を考えている。(西原)
- 流木調査の際は、流域圏メンバーが参加者に声掛けや助言をお願いしたい。(国立)
- 流木調査とアンケート調査を両方してはどうか。(青木)
- アンケートは参加者の負担にならないように工夫したい(国立)
- 設問数をなるべく少なくして愛知県のアンケートと合体させてはどうか(青木)

ふりかえり 会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



**鳥類観察を通じた感想等：**鳥類と干潟との関係がよくわかった。／鳥にとっては干潟だけでなく、後背地も大切なことがわかり勉強になった。／干潟と鳥の関係の後背地の問題を含めて広く認識できた。／干潟と鳥と後背地の土地利用が関係していることを教えてもらいとても参考になった。／鳥類の生態と開発について考える機会となった。／鳥類を観察することで干潟等の環境の変化や後背地の重要性がわかった。／海と陸(鳥)との関係がわかりよくなった。／鳥を通して視野が広がった。／意外と遠くに鳥がいたのでもっと専門的な望遠鏡が必要だが、高橋氏のものでよく見ることができた。／鳥を通じた干潟等の話は、別の機会が勉強会があるとよい。

**その他：**今までの取り組みを継続していきたい。／ダム堆砂を使った干潟造成の話が一歩進みよかった。

### 今後のスケジュール(予定)



#### 次回 第22回海部会WGを10月11日(土)に開催します

佐久島で行われる愛知県海岸漂着物環境調査に参加し、振り返りを行います。





発行日：平成 26 年 10 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 22 回海部会 WG を開催しました！

10 月 11 日に第 22 回海部会 WG を開催し、西尾市の佐久島白浜海岸にてごみ・流木調査を実施しました。

なお、今回 WG は、愛知県主催の「佐久島の海岸でわくわくビンゴ&アート体験!!」と同時開催で実施しました。

日時：H26 年 10 月 11 日（土）10:15～14:00  
場所：西尾市一色町 佐久島 白浜海岸  
参加者：13 名（事務局含む）



### ◆主な活動内容

#### 1：西尾市一色町佐久島白浜海岸にてごみ・流木調査を行いました



西尾市一色町佐久島白浜海岸にてごみ・流木調査を行いました。流木、人由来ごみの 2 種類の調査について、海部会メンバーで話し合いながら実施しました。



10m 四方範囲を調査します



約 60cm の木材



根付きのアマモ



種別に分類



集めたゴミ

※調査結果は裏面に記載しています。

#### 2：「佐久島の海岸でわくわくビンゴ&アート体験!!」に参加し、子どもたちと交流しました



海部会メンバーでごみ・流木調査をした後、愛知県主催の「わくわくビンゴ&アート体験!!」に運営スタッフの一員として参加し、海岸漂着物集めのアドバイスや子どもたちとの交流を行いました。



漂流物の収集



ビンゴを記入する様子



海部会メンバーと子どもとの交流



拾ったゴミの確認

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100











## ◆ごみ・流木調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの 3%、川発生のもの 10%、海発生のもの 20%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分（ランク 4~5）で、内訳は以下ようになった。

<流木の状況>

A. 漂着物の状況 (時間経過)	1	樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの	無
	2	樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの	有
B. 人工林・自然林、 その他の別	1	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林	無
	2	まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木	無
	3	切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの	有
	4	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等	無
	5	その他 ( )	

<人由来のごみの状況>

写真	       
種類	<p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器・トレー、紙パック、ふた、キャップ、袋類（農業用以外）、飲料ガラス瓶、ライター、その他生活系（薬きょう、靴、モップ、ゴルフボール）</p> <p>【漁業系ごみ】その他漁業系（網等）</p> <p>【事業系ごみ】木材等、苗木ポット、船の部品</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、シート、袋の破片</p>
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風の影響か、根付きのアマモをはじめとした海藻が多い。</li> <li>・漂流後、時間が経過した古いゴミが散見された。</li> <li>・川で使ったと思われるゴルフボールも見られた。</li> <li>・60cm 程度に短く切られた間伐材も多く見られた。</li> </ul>

## ◆振り返りでの主な意見

### ●ごみ・流木調査と子どもたちとの交流の感想について

- ・林野庁の方針で愛知県は切り捨て間伐をしていたが、批判が出たため利用間伐に変えた。実際は、道があってワイヤーを通せられて間伐材を搬出できる場所は限られる。
- ・愛知県の県民の森の間伐では 61cm に、根羽村では子どもが拾いやすいように 50cm や 60cm の長さに切っていた。そのような短い流木でも、海藻網にひっかかると漁業に支障が出る。
- ・アマモはゴミではない。海藻に虫がわいて鳥がそれを食べにくるので浜の栄養源にもなる。
- ・ビンゴで指定された種類のゴミしか探していない保護者がいたが、「後からゴミ拾いしましょう」と言うのを聞いて安心した。
- ・ボールやおもちゃが落ちていたが、皆、漂着したのではなく、誰かが捨てたものだと言っていた。村の子が捨てたおもちゃだと言っている親もいて、問題だと思った。

### ●次回WG（干潟造成にむけた検討）について

- ・愛知県水産課の事業の一環として、矢作ダムを西浦の人工干潟に持ってきて土壌環境改善をする話が進んでいる。矢作ダムに協力してもらい、今年度中に実施される予定のようだ。
- ・次回 WG では、矢作ダムもしくは愛知県の担当者に来てもらい、具体的な説明をしてもらいたい。その上で海部会として、どのように関係機関と連携していくか、どのような方法で矢作ダムの砂を運び、どの場所に砂を入れるのかなどについて話し合いたい。



## 今後のスケジュール（予定）

次回 海部会第 23 回 WG を 11 月 19 日（水）に開催します

内容は、干潟造成にむけた検討などについて話し合う予定です。

